

コカ・コーラ(KO)

【セクター】 飲料

【市場】 NYSE

【企業概要】

ノンアルコール飲料の世界最大メーカーです。同社ブランドは500種以上の炭酸飲料、ダイエット炭酸飲料、果汁飲料、紅茶、コーヒー、水、スポーツ飲料、エネルギー飲料と多岐にわたり、主要商品に「コカ・コーラ」、「ダイエット・コーク」、「パワーエイド」、「ダサニ」、「ミニッツ・メイド」などがあります。飲料カテゴリーの世界シェアは、炭酸飲料でトップの45.8%、スポーツ・エネルギー飲料でペプシに次ぐ2位の13.7%、ボトルウォーターで3位の5.5%、缶コーヒーでトップの13.4%となっています（17年）。

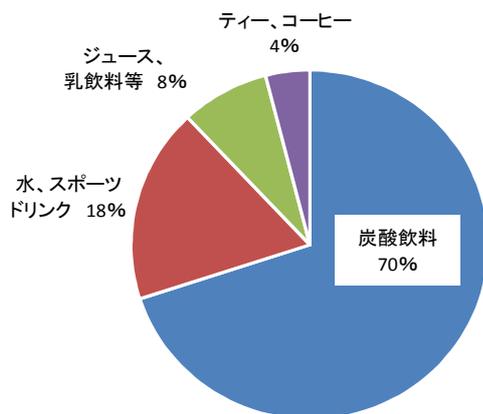
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
16年12月期	41,863	8,354	1.91	1.40	5.4	34.4	26.6
17年12月期	35,410	8,240	1.91	1.48	4.0	41.1	21.6
18年12月期予想	31,848	8,871	2.08	1.54	4.5	48.9	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 カテゴリー別売上構成比（17年12月期、数量ベース）



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 飲料カテゴリーの世界成長率（数量ベース）

	15年	16年	17年
炭酸飲料	0%	-1%	-1%
水、スポーツドリンク	7%	6%	1%
ジュース、乳飲料等	1%	-1%	0%
ティー、コーヒー	4%	3%	2%

（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

会社は成長が鈍い「炭酸飲料」への依存度を下げて、成長がより高い「水」や「ティー、コーヒー」分野の売上構成を引き上げ、また、ボトルング事業の再編を進めています。この施策によって売上成長率と利益率を高めようとしており、今後はその成果が期待されます。売上の減少が続いているのは自社のボトルング事業をフランチャイズ化していることが主因で、会社ガイダンスでは18年12月期に前年比17%ポイントのマイナスの影響が見込まれています。この影響を除くオーガニックの売上成長は4%が見込まれています。

【見通し・注目点】

成長率の低下が続いたことから、同社の株価は主に配当利回りが基準になって動いていると見られます。EPSの引き上げによって、配当利回りだけでなく、PERで評価されるようになる分岐がいつ到達するか注目されます。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 18/10/10）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。